

## 第10回 府中市総合計画市民検討協議会開催結果（要旨）

- 1 開催日時 平成24年6月30日（土）午前9時30分～10時40分
- 2 開催場所 府中市役所北庁舎3階第1・2会議室
- 3 出席委員 55名（公募市民33名、公募職員22名） 欠席委員9名
- 4 出席職員等

高野府中市長、吉野政策総務部長、古森政策課長、大井政策課長補佐、武澤政策課主査、吉川政策課理事、河野政策課主任、パシフィックコンサルタンツ㈱（齋藤氏、山口氏）

- 5 傍聴者 1名

- 6 議事日程

議事日程に入る前に、本日の傍聴の申出が1名あり、諮ったところ全員異議なく了承を受けた。（傍聴者1名入室）

次に、本日の委員の出欠状況については、委員64名のうち55名が出席し、定足数に達しており、会議は有効に成立しているとの報告を行った。

続いて、配付資料（資料1）についての確認等を行った。

なお、資料1は、「第9回市民検討協議会開催結果（要旨）」及び「府中市総合計画市民検討協議会提言書」、「府中市総合計画市民検討協議会提言書における表現等の修正」であるとの説明を行った。

次に、次第に従い議事に入った。

### （1）第9回の議事録の確認

平成24年6月9日（土）開催の第9回「市民検討協議会開催結果（要旨）」の確認について、資料1に基づき説明を行った。

資料1の「市民検討協議会開催結果（要旨）」については、特に加除修正等の申出はなかった。なお、「府中市総合計画市民検討協議会提言書」については、一部加筆修正等の旨の申出があったので、別紙「府中市総合計画市民検討協議会提言書における表現等の修正」により説明を行った。

修正等の申出があったのは、まず、都市基盤・産業部会で3か所の修正等の申出があった。1か所目は、10ページ「新たな都市像」の項目で「行きたいまち＝住みたいまち」を「行ってみたいまち＝住みたいまち」と修正し、また、①から③までを別紙のとおり修正する。2か所目は、80ページ「主な課題」の「土地利用への配慮」の1番目の文中の文言を、別紙のとおり修正を行う。3か所目は、86ページ、「めざすまちの姿」の5項目目「桜並木通りにおける景観の保全と整備」の文章を削除する。4か所目は、86・87ページ「主な課題」の2番目以降の文章を別紙のとおり修正する。

次に、行財政運営部会では、2か所の修正等の申出があった。1か所目は、107ページ「めざすまちの姿」の1番目の文中の文言を別紙のとおり修正する。

2か所目は、111ページ「別記」の5項目目を削除する。

以上の加筆修正等については、全員異議なく、資料のとおり修正して、第9回開催結果（要旨）及び市民検討協議会提言書を確定し、市ホームページ、中央図書館、情報公開室等で公開することです承を受けた。

## （2）府中市総合計画市民検討協議会の提言

市民検討協議会小川暁男会長より高野府中市長へ提言書の提出があった。提出にあたり、小川会長から、「このたび市民検討協議会の最終回を迎え、短い期間でしたが、多くの皆様と議論を交わしこの提言に結びつきました。会長の任を受け微力でしたが皆様と交流する機会ができ、大きな感慨を受けています。

特に、行財政運営部会では積極的な意見交換ができて大変役立ちました。ラグビーの言葉の中に、「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」という言葉がありますが、市長は市民のために市民は市政のために、今回ご参加の委員の皆様が、今後とも市政の先頭に立って、ご活躍されることを期待しています。今後ともより良い市政になるように、力を合わせて一緒に頑張りたいと思いますので、よろしく願います。」との挨拶があった。

続いて、各部会長より提言にあたり意見をいただいた。

○健康・福祉部会 菅野修逸委員「健康・福祉部会では、協議会委員全員の意見を尊重し、「健康」と「福祉」に関する基本施策9項目について、テーマごとに積極的な協議を重ねてきました。

本部会では、全ての基本施策に共通する基本理念として、「人と地域とのつながりを大切にし、人にやさしいまち府中」を実現させることが重要であると考え、次の4点について、早急な実現を求めるものです。

①超高齢社会を迎える中で、高齢者が住み慣れた地域で生きがいを見つけ、「人生100年」の実現に向けて、いきいきと暮らすことができるように、世代間を超えた地域性のある支援策や行事等を充実させる。②次世代を担う子ども達の健全な育成のために、子育てに関する施策をより一層充実させ、とくに子育てをする親等の不安や悩みを解消するための相談支援体制を充実させること。また、市民の子育てに対する意識改善が可能となるような施策を実施すること。③豊かな暮らしを実感する上で、「健康」は欠かせないものです。誰もが心身共に健康でいきいきと暮らすために、市民の健康づくりに対する意識の向上を図る啓発事業や病気にならないための予防対策に力を入れる他、十分な医療体制を確保できるよう、医療機関等と連携すること。④高齢者や妊婦、障害者の方など様々な人が暮らすまちの中で、誰がどこに行っても安心して生活できる住環境の整備が必要不可欠です。公共施設のバリアフリーデザイン化及びユニバーサルデザイン化や交通機関や商店等にも働きかけ、誰もが過ごしやすいまちづくりを行うこと。

このことを十分に反映して計画を策定してもらうことで、市民にとってより身近な計画となり、「市民に愛されるまち府中」のますますの発展につながる

ことを願うものです。」

- 生活・環境部会 大崎清見委員「生活・環境分野では、市民の安心安全で心豊かな生活を確保する考え方に基づいて検討を行いました。また、当部会では、基本施策として、自然の保護と回復、緑の整備、循環型社会の形成、生活環境の保全、防災対策の強化、交通安全の確保と地域安全の推進を検討しました。この分野は、特に日常生活と直接的なかかわり合いが深いことから、自然環境との共存を重視した施策のあり方が提言内容の要となりました。具体的には、生き物の視線に立った生態系の保全、循環型社会の形成による持続可能な社会のしくみづくり、人と人のつながりを大切にした防災・減災のまちづくり、市民と市がそれぞれできることを学び、地域や家庭における環境教育などを通じて先人の知恵を尊重し、現状を保全するとともに必要により改善し、後世に伝えていくことが大切である等の意見がありました。

検討協議会に参加した感想としては、生活・環境部会は市民委員が9名、職員の委員4名の合計13名で意見交換をしました。市の職員がしっかり締めていただき、大変良かったと思っています。提言がまとまったのですが、やり残したことがあったように感じられ時間不足だったのではないかという印象がありました。3月に文化センター等にて、「総合計画に関する市民の意見を聴く会」が開かれましたが、参加者が少なく、自分の考えを述べる市民が少ないことが残念に思いました。参加者を増やすには一朝一夕にはいかないと思いますが、何らかの対策を考えて体制を整備することが必要と思います。」

- 文化・学習部会 山内啓司委員「第6次府中市総合計画の策定にあたり、文化・学習部会では各施策について討議を重ねてきましたが、より良い府中市にするために、市民と行政が共に課題を見つめ、それぞれの役割を明確にし、「協働・協創」して課題解決に取り組むことを目指していきたい。また、人と人との絆について、改めて考える時期に来ている今日、コミュニティの形成によるつながりが大切であり、全ての施策を実現する上での根幹となると考えています。これらを踏まえ、めざすまちの姿、課題、役割分担について次のとおり意見を述べます。

①大震災後、これほどコミュニティの大切さを感じたことはない。日頃のあいさつや声掛けから始まる「地域コミュニティ」をより大切に育むとともに、「目的別コミュニティ」を形成することで人と人とのつながりを深め、心の交流を図っていきたい。②「基本的人権」が、総合計画を策定する上での基本理念となり、人とのつながりや絆、現在も残る様々な人権問題や平和への意識を、市民一人ひとりが高める必要があるとともに、助けを必要としている人に寄り添うことが大切である。③男女共同参画は、未だ根強い役割分担意識があり、更なる意識改革を進めるとともに、女性だけでなく、男性も含めた社会全体の問題として捉える必要がある。④現代の社会情勢から、人生をより豊かにするために、市民誰もが生涯を通じて学習する権利を得られるまちを目指していきたい

い。また、心の豊かさを形成するためには、文化・芸術に親しむことが大切であり、市内の文化的財産を守り、誇りに思えるようなまちづくりを進めていきたい。⑤市民が手軽にスポーツを楽しむことが大切あり、スポーツを通じてまちが一体となって盛り上がり、感動を分かち合うことで心の交流につながる。⑥学校教育や青少年の健全育成を図るためにも、行政だけでなく、地域の協力により子どもを育てるという意識形成と環境作りが必要である。⑦国際化や都市間交流の推進を図ることが、視野を広げるうえで重要なことであり、府中市がさらに発展するためにも意義深いと考える。

最後に、今回の総合計画市民検討協議会では、市民と職員がともに協議することができ、「協働・協創」の観点からも有意義な場となりました。」

○都市基盤・産業部会 森田敏雄委員「都市基盤・産業部会では、景観の保全と形成、計画的な土地利用の推進、まちの整備、公共交通の利便性の向上、道路の整備、地域情報化の推進、商工業の振興、都市農業の育成の8つの施策を検討しました。また、幅が広くかつ各々が関連を持ち、まとめるのに苦労しました。部会での協議の中で、委員の皆さんが、府中は非常に住みよいまちであると考えていることが分かりました。これは、市の意識調査でもあるように、「住み良いまち」と「まあ住み良いまち」を合わせると、87.8パーセントという数字が出ています。また、8施策を検討する中で共通の核が5つあると考え、これを根底に次のとおり協議しました。

①防災・防犯等の対策が充分であり、安全かつ安心できるまちであること。②市民同士の交流があり、ふれあいのあるまちであること。③府中崖線を含めて、里山の風景、原風景や歴史ある風景の維持が必要である。④府中の歴史を含めわがまちとしての誇りを持っていきたい。⑤府中には多くの観光資源があり、これを充分活用し、府中を活性化していきたい。

実質の協議は、約2時間の会議を7回しか行えませんでした。全て提言書に思いを反映したとは言いかねます。その中で今よりさらに質の高い水準を目指した住み良いまちづくりを望み、提言としてまとめることができました。20年以上府中市に住んでいて、はじめて市政に関わりましたが、府中の良さを改めて再認識しました。まちを歩いても見方が変わりました。協議の中で、市担当者が市を良くして行こうと日々努力していることも分かりました。また5年後の総合計画にも携わりたいと念願しています。」

○行財政運営部会 内藤治委員「行財政運営部会では、市民との協働、行財政改革、財政運営などは行政の根幹をなすもので、すべての活動に密接な関連がありますが、市民に分かりにくく携わりにくいのが実情です。より多くの市民に、行政に対する関心を持ち、知ってもらうために、それぞれの取組ごとに、「めざすまちの姿」、「主な課題」、「行政の役割」の他、「市民の役割」を明確にしました。

提言内容は、「市民との協働によるまちづくり」、「行政改革への取組」、「財

政運営の効率化」の3つの項目を基本方針として、将来に渡り住み続けたいと市民に思われるまちを実現するために、市民と行政との協働による行政運営、税の活用の公平性、透明性と受益者負担の原則に基づく財政の健全性の維持、選択と集中及び優先順位付けによる限られた財源や職員の有効な活用を念頭に置いて「行政の役割」を実践していくとともに、市民自らが主体的に「市民の役割」を果たしていくことが重要です。これらの提言は、全10回という限られた制約の中で行いましたが、十分協議できない部分は、メールで委員間の意見調整を行い、また時間外での打合せを重ねながら、真摯に検討・協議を重ね、委員全員の思いを一つにしてまとめたものです。

府中市及び総合計画審議会におきまして、この提言書を市民の意見として受け止めていただくとともに、別途開催された「市民の意見を聴く会」や「市民意識調査」等の結果を参照いただき、第6次府中市総合計画の策定に誠実に反映し、本提言書が府中市の行財政運営の一助となることを強く希望します。」

続いて、高野府中市長より、「本日は、市民検討協議会小川会長から提言をいただき、心引き締まる思いで受け止めました。また、会長ならび各部会長からご挨拶をいただき、市民検討協議会に対する熱き思い、府中市の将来に対する情熱をお伝えいただき心から感謝を申し上げます。この提言書に基づき、総合計画審議会にて審議していただきますが、「市民の意見を聴く会」や、「市民意識調査」等でいただいたご意見を十二分に反映していただくよう、審議会に申し添えたいと思います。また、市政にとって大変重要な資料と考えており、これからのまちづくりに活かしていきたいと思います。

今回の総合計画は、平成26年度からの計画であり、また、26年度は、府中市制施行60周年の年にあたります。これから先10年、20年あるいはその先までの市政を見据えたまちづくりを考えており、委員の皆様方からいただいた提言はまさに60年を迎えた年から始まるまちづくりであり、70年・80年という歴史の積み重ねを見据えての計画になります。

皆様方の提言、報告書の文書の中に、市民と市との協働という言葉がありますが、委員の皆様の半年間の活動が協働のまちづくりを形成しており、協働の礎ができたものと考えております。今後も市の様々な事業に対し、ご意見やご協力をいただきたいと思います。」との挨拶があった。

### (3) 意見交換

意見交換では、各委員から次のような意見等があった。

- 委員「行財政運営部会では市長と市民の懇談会の場を増やしていただきたいと思ひます。現状では、市長との懇談会は、事前に質問を受け、それに回答する場面が多く見受けられます。これを積極的な討論の場、意見を聞く場として小さな場でいいので、設けていただきたいと思ひます。」
- 市長「まちのあり方については、市が定めたことを進めるだけではなく、市民

の皆様との対話を通じて必要なニーズを反映して市政を進める成熟社会が必要であると思います。どのような形で対話をするのが一番望ましいのか、ご意見のように、自由に討論できる場が多いと良いと思います。

6月の定例議会では就任後初めて手がける補正予算があり、その中で、文化センターの自主グループの代表や、協議会の役員の方が中心に10月、11月に11館全てで2時間程度の「市長と語る会」を設けることの予算を承認いただきました。今後どのような方法が良いのかを考えながら毎年実施していきたいと思えます。」

- 委員「府中に住み50年になりますが、府中市はとても住み良いと認識しています。平成22年度の市民意識調査で、「住み良い」と答えた市民が44.1パーセント、「まあ住み良い」と答えた市民が43.7パーセント。合計が87パーセントを超えているので、市民の満足度が高い。それならより上を目指すべきだということで、「もっとさらに」をキーワードにしてきました。

また、逆に「まあ住み良い」が40パーセントを越えているので、本当に満足度が高いのかと考えることもできます。これからは、声なき声、何となく住んでいる方々の意識をどう捉えるかということところにも気を配っていただきたい。それには市長が言われたような直接市民との対話を進めていただきたいと思えます。検討協議会では、論議する点が多岐に渡るので6か月余という期間はとても短かったと感じています。」

- 委員「3月に開催された「市民の意見を聴く会」への参加者が少ないのは残念でしたが、調べてみると、関心がないわけではなく、出ず嫌いでした。NPOで環境を主体とした活動をしています、市政に対しての市民の関心は高まっていると思う。府中市の平成23年度のアンケートでも、環境部門6項目について意見が173件も出ています。決して市民が意見を持っていないのではなく、出づらいのか、出るのが嫌いなのか、その辺に課題があると思えます。市政に関心を持つような対策を講じていく必要があると思えます。

なぜ府中市の市民は住み良いかということ、見方の違いがあると思えますが、どこに緑があるかということ、ケヤキ並木や大国魂神社、その他多くの緑が残っています。多摩川も住み良い緑の係に大きな役割を果たしています。多摩川の向こうの多摩市の稜線の緑が借景としてあると思えます。緑の観点から考えると、北は緑が少なく、多摩川では緑が多いといった濃淡が違います。これからはいろいろな面で市民パワーを発揮して、市民と行政が成し遂げていく協働関係が重要であると感じています。」

- 委員「12月からの半年は早かったと思えました。このような会に参加させていただき感謝しています。一つの文章に、どれだけ重みがあるのか。皆さんと検討する中で、家庭の中の話をしただけですが、私たち自身もより良い府中市のために何ができるか真剣に考える良いきっかけになりました。提言を総合計画に反映していただければと思えます。」

- 委員「市長のメールによるコラムがありますが、どれくらいの市民が登録しているのでしょうか。防災の話で、ライフラインが止まったときにFMラジオで情報発信できたらいいと思います。ケーブルテレビでもやっていますが、メールを皆さんが登録していれば、それなりの情報をもたらえるのかと思います。予算作りもこれからという話を聞きましたので、聞いてみたいと思います。」
- 市長「市長コラム以外にも、防災、教育、福祉等様々な分野でメールを発信しています。市長コラムについては月3回発信して、私の思う事柄、あるいは公務に関わる動きについてお知らせをいたします。受け取られた市民の皆さんが、市長は今日はどこにいるのかなど身近に感じていただければと思い発信することにしています。
- また、毎月3回広報が出ます。前市長は、毎月11日号に市長コラムを掲載していましたので、私も4月から11日号に掲載することにしました。合計月に4回市民の皆さんに私の思うこと、行動などについてお知らせしていきたいと思っています。各部、各課様々な事業があり、特にイベントや安全安心に関わることについては、発信が多くなると思っており、委員のご意見のようにこれからはメールという手段は、災害の発生時には、有効な手段になると考えていますので、危機管理体制などについてもしっかりと取り組んでいくよう努めていきたいと思っています。
- 委員「私はまだ社会人として未熟な若い世代かと思いますが、この検討協議会に参加させていただき、市政に対し前よりも興味が出ました。若い世代が市政に関われる場、利用してもらえるような場が増えたら良いと思いました。それにより、新たな世代のコミュニティが形成されると思いますので、この様な機会を増やしていただきたいと思います。」
- 委員「今回の検討協議会は、公募ではじめての参加者が多く、今までの他の会議とは違うと感じました。府中市としては画期的なことだと思います。背景としては、大震災により地域に目を向けているのではないかと思います。この機会に府中市としても皆さんが関心があるタイミングで、様々な場で意見を聞く場を増やしていただきたいと思います。その1つとして、この会議が上手くいったことをPRしていただきたいと思います。部会で終始話題になってしまったのが、市民とのキャッチボールが必要ということです。市民に返されていないと、関心を持ってないということが繰り返されてしまう気がします。これだけの方たちが参加できたので、成果を市民に返すことが一歩と考えます。」
- 委員「提言書を拝見し、半年でこれだけの人が集まり議論されたということで、相当エネルギーがかかったと思います。部会の意見は似ている部分がありますが、ある部分は連携していかなければならないものもあります。市として縦割りではなく連携して取組んでいただきたいと思います。」
- 委員「簡潔にまとめられた提言書ですが、この言葉に至るまでの道のりの重さというものを感じております。また、まとめてくれた市の職員には感謝してい

ます。このたび、高野市長と友好都市交流としてウィーンに行きましたが、私たちの部会では、友好都市交流が課題となっており、その視点からウィーンを見させていただきました。ウィーンというまちは、人間にとって何が大切かを常に考え、それを具現化しているまちだと感じました。

以前、府中の文化振興計画の検討に参加させていただきましたが、その際に、文化振興とは聞き手、見手を育てていくことと聞きました。府中市には、博物館、美術館などがあります。これからの子供たちを、よき聞き手、見手として育てることが文化振興につながると思いました。」

(4) その他

その他意見等はなく、これをもって府中市総合計画市民検討協議会を閉会した。

(以 上)

【配付資料】

- 資料 1 第 9 回市民検討協議会開催結果（要旨）  
府中市総合計画市民検討協議会提言書  
府中市総合計画市民検討協議会提言書における表現等の修正